

本願寺 御歴代門主シリーズ

その三

本願寺第四代宗主

善如(ぜんによ)上人(一三三三〜一三八九年)

善如上人は元弘三年(一三三三年)本願寺第三世覚如(かくによ)上人の次男の従覚(じゅうかく)上人の「長男として」誕生されました。

覚如上人は、宗門のあり方をめぐり「長男の存覚上人と意見を異にしたため、門主職を存覚師に譲らず善如上人を後継と定められました。

善如上人の「在職時代は、南北朝の争乱の最中であり、また、地方では高田派・木辺派等の諸派が本山を形成し、また、関東荒木門徒の系流の了源が、洛東山科、後に東山渋谷に仏光寺を建立し「名帳や絵系図などに名を連ねる」ことにより極楽に往生することが出来る」として庶民の関心を集め、その勢力は本願寺をはるかに凌ぎ、本願寺としては苦難の時代でありました。

善如上人は正平六年(一三五一年)十九歳の若さで本願寺第四代の法灯を「継職継されまし



本願寺第四代宗主 善如(ぜんによ)上人

識豊かであった存覚上人は、聖教の書写・下付、および本尊の修復・作成などの活動を積極的におこなわれ、善如上人の伝道教化活動の大きな力となりました。

善如上人は能筆家(書道家)であり、覚上人が精力を注いで作成された『本願寺聖人親鸞伝絵(ほんがんじしようにんしんらんでんね)』(東本願寺所蔵)の巻末には、覚如上人の識語と並んで善如上人十四歳の筆跡で奥書がされています。

また、善如上人は二十八歳のとき、近江国伊香の門弟成信に授与するため『教行信証延書(ききょうぎきょうしんしんしょうのへがき)』全十七帖(西本願寺所蔵)を書写されました。

康応元年(一三八九年)二月二十九日(旧暦)に五十七歳でお浄土へ「往生されました。

※参考文献 福岡光超著「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「永代経法要」(善教寺本堂)

四月 十二日(金) 昼席：午後一時半〜

十三日(土) 朝席：午前十時〜

昼席：午後一時半〜

講師 河野行昭師(安芸郡坂町 西林寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

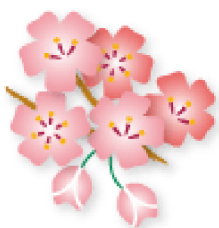
四月 十六日(火) 午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「初参式」(善教寺本堂)

五月 二十六日(日) 午前九時半〜

*仏教婦人会主催行事



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp